

平成27年度
第3回基本政策審議会資料

政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について

④ 女 性

現状と課題

【国の動き】

- 少子高齢化による人口減少社会への対応という喫緊の課題があるなか、安倍内閣では女性の力を「我が国最大の潜在力」と捉え、成長戦略の中核に位置付けている。
女性の活躍推進法(本国会審議中)において、国による基本方針、自治体による推進計画、事業主による行動計画の策定が求められ、女性の職業生活における活躍を促進することとしている。
- 国が策定中の「第4次男女共同参画基本計画」では、長時間労働を前提とした労働慣行の変革や、従来女性があまり参画していなかった分野(科学技術など)への参画促進などを盛り込むことを検討している。

【女性の就労と働き方改革】

- 女性の労働力率は、平成2年から22年の20年間に、25歳～64歳にかけて幅広く上昇しているものの、結婚出産期に低下し、子育てが一段落すると上昇する「M字カーブ」が依然として見られる。(国勢調査)
- 現在就労していない女性の約4分の3は働くことを希望しており、希望する就労形態は、結婚・子育て期の30代では正社員(約29.7%)よりもパート(51.4%)を希望する人が多い。(岡山市女性が輝くまちづくり調査(H26))
- 有業者に占める女性の割合(44.8%)は指定都市中5位で全国平均(43%)を上回っているが、管理的職業の従事者の割合は少なく、指定都市中15位(岡山市:10.7%、全国平均13.4%)。職場における女性の登用は遅れている。(平成24年就業構造基本調査)
- 岡山市役所では、「隗より始めよ～女性職員が輝く職場づくりのために～」として、育児休業を昇任に影響させない人事管理や、部下の子育てと仕事の両立を支援する上司「育ボス」の養成、子育て休暇取得率100%を目指した男性職員の育児参加への取組など、平成27年度から7つの取組を本格的に実施している。
- ⇒女性も男性も働きやすい職場づくりのためには、長時間労働を前提とした、男性中心型労働慣行を変革し、テレワークや朝方勤務、短時間勤務など、多様で柔軟な働き方の導入の検討とともに時間外勤務削減のために、また、休暇を取りやすくするために、効率を高める業務改善や仕事の共有、人事評価のあり方の見直しも必要。
- ⇒働き方改革においては、一人ひとりのライフステージに応じて働き方が選択できることが重要であり、子育て期は、ゆるやかに働き、離職し子育てが一段落した後の復職期には、フルタイムで働くなど、女性が希望する生き方に応じ、経験や能力が活かせるような仕組みづくりが課題。
- ⇒岡山市役所において、女性が輝くまちづくりを率先して推進し、企業に対しては、働き方改革や職場の意識改革など、企業自らが女性活躍促進に向けた取組を積極的に進めるように、市としていかに働きかけるかが課題。

【仕事と生活の両立】

○女性が仕事を辞めたいと思った理由・退職した理由は、結婚時は「仕事と家庭を両立する自信がなかったから」が最多(40.2%)。出産・子育て期は「自分の手で子どもを育てたかったから」(45.5%)、次に「仕事と子育てを両立する自信がなかったから」(42.9%)。仕事と家庭・育児の両立への不安感が、女性が働き続けることの阻害要因となっている。(岡山市女性が輝くまちづくり調査(H26))

○子どものいる夫婦の共働き率は約50%。(国勢調査)

○育児や家事は依然として女性の負担が大きい。(男性の平日の育児時間:30分未満が24.5% 家事時間:30分未満が58.8%) (岡山市子ども・子育て支援に関するアンケート調査(H24))

⇒育児や家事は依然として女性の負担が大きく、仕事と育児などの両立への不安感や、パートナーや職場の理解・協力不足が、女性が働き続けることの阻害要因となっており、仕事と生活の両立を推進する取組が必要。

【性別による固定的役割分担意識】

○「男性は外で働くもの、女性は家庭を守るもの」といった、性別による固定的役割分担意識は、平成12年、17年、22年を比較すると、固定的な役割分担に否定的な意見が、65.9%→68.3%→69.3%と増加している。男女別にみると、男性の方が女性よりも肯定派が多く、否定派が少ない。全国と比較すると、岡山市では男女の固定的な役割分担について否定的な意見が多い。(全国の21年調査では、否定的な意見が55%) (岡山市男女共同参画に関する市民意識・実態調査)

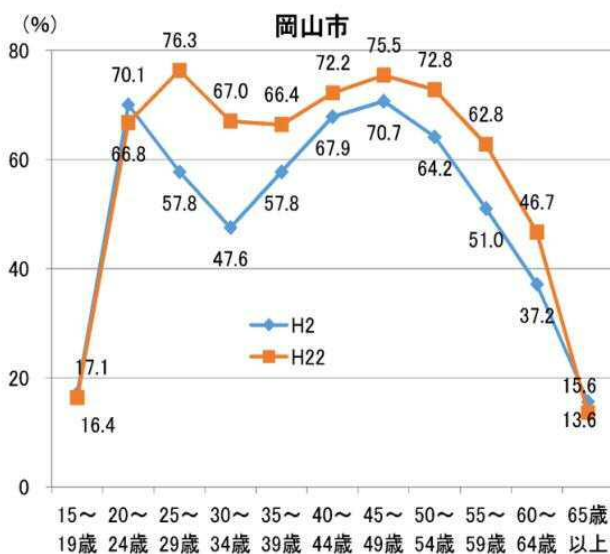
⇒女性が、結婚・出産・育児・介護など、それぞれのライフステージにおいて、個性や能力を發揮できるよう、子ども・子育て支援や育休などの制度整備に加えて、男性も含めた社会全体の意識改革が必要。そのためには、自治体単独ではなく、国・自治体・企業・市民がいかに連携して取り組んでいくかが重要。

【地域における男女共同参画】

○PTA会長や町内会長など、地域の意思決定の場への女性の参画は進んでいない。(PTA会長は約10%、町内会長は約4%で横ばい) (岡山市新さんかくプラン・第3次さんかくプラン行政評価)

⇒さまざまな分野で女性の視点や考えを反映し、地域の活性化や女性も男性も生活しやすいまちづくりを進めるため、意思決定の場において女性の参画を促進することが重要であり、町内会長やPTA会長などについても、女性の参画を進めて行く効果的な取組みの検討が必要。

女性労働力率



資料:国勢調査

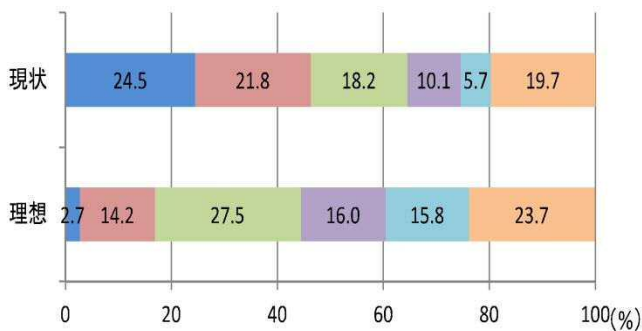


資料:国勢調査

注:労働力率とは、15歳以上人口に占める労働力人口(就業者+完全失業者)の割合。

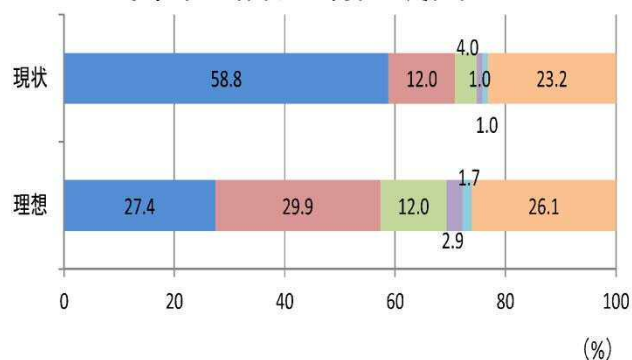
○子どもとかかわる時間

平日に子どもとかかわる時間(主な男性の養育者)

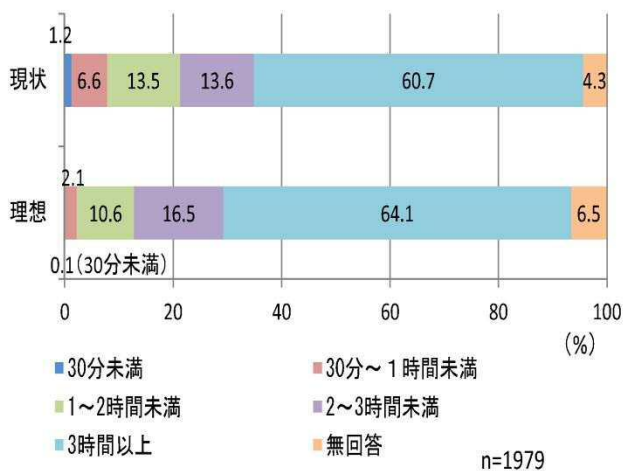


○家事参加の時間

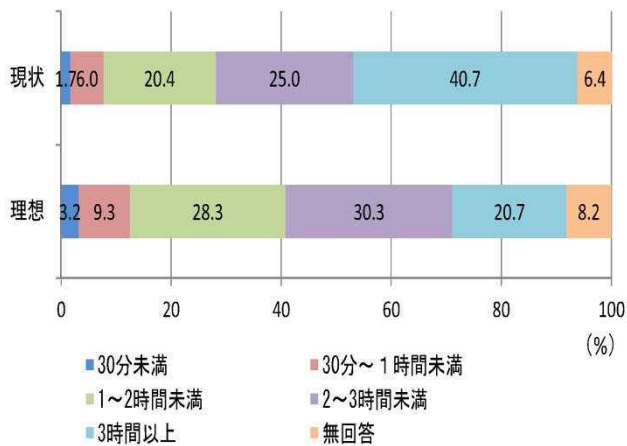
平日の家事等の時間(主な男性の養育者)



平日に子どもとかかわる時間(主な女性の養育者)



平日の家事等の時間(主な女性の養育者)



資料:岡山市「子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書(H24年11月)」

政策展開の長期的な考え方

性別にかかわらず個性や能力を発揮できるまちづくり

- 多様で柔軟な働き方の推進と、社会全体の意識改革に取り組むことにより、職場や地域など、様々な場面で女性も男性も活躍できる男女共同参画社会を目指す。